

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 7 年 4 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100488		
法人名	株式会社 リアン		
事業所名	グループホームでしお		
所在地	広島市南区出汐1丁目4-16 (電話) 082-250-1620		
自己評価作成日	令和7年3月20日	評価結果市町受理日	令和7年5月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100488-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和7年4月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様に生きがいを持っていただき、【普通の生活】を送り、個々の思いや家族様の思いを大切にしていけるよう、『愛・笑顔・元気・安心』という施設目標・スローガンを掲げ、職員の一人ひとりが、入居者様に寄り添い共に生活をし、生きる力・希望を奪わない支援・介助をさせていただきます。地域の民生委員・地域包括支援センターに運営推進会議の報告を欠かさず行ったり、地域の公園を散歩に利用するなどして地域資源を活用させていただいたり近所の方に挨拶をさせていただくことにより絆を深め、より一層地域に根付いた施設であることを目指しています。入居者様にとって「我が家」であり「居場所」であるよう職員のスキルを高め・意識を一つにして支援しています。また、家族様の希望に添えるよう会話などの機会を持ち関係性を大切にするなどしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者の普通の生活、個々の暮らしが実現できるように職員は尽力している。認知症の症状の軽減、活動を増やす目的で利用者の半数の方が他法人のデイケアを週3～4回利用する事が生活習慣の一部となっている。デイケア利用日は2ユニットが合同で一緒に生活する事で利用者同士の関わりを深める取り組みをしている。看取りや医療との連携に力を入れており、令和7年1月から訪問看護師、主治医、薬局と情報共有アプリを活用することで迅速な初動行動が取れる体制を整えている。コロナ禍で外出が途絶えていたが、前年度から外出を再開し、サーカスやドリミネーション、近隣の神社に初詣など、季節の外出行事や夏祭り、亥の子祭り等の地域行事の参加で地域密着の絆作りに努めている。高等学校へ出向き、ガイダンスや啓発活動などを行い地域への理解を深める取り組みをしている。

自己評価	外部評価	項 目（ 2階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念を事業所理念として、朝礼時に唱和を行っています。また、理念をもとに施設目標を作り、入居者様・家族様へのサービス向上に努めています。地域に対しても職員に地域密着の施設であることが強く認識でき地域の一員であることを自覚するために施設目標におりこんでいます。今年度の目標はより深く周知するため昨年と同じものにしています。	事業所の目標を掲げ毎日の朝・夕礼時に唱和し周知に努めている。職員個々に問いかけ気づきを促すことで意識の向上に努めている。今年の目標、1年後の目標、3年後の目標を職員個々に掲げ将来のビジョンを共有している。年1回の代表者との面談を実施し、達成度、評価、アドバイスを受ける体制が整っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入れていただき、町内の主な行事夏祭り・亥の子祭りに参加させていただきました。南区民文化センターの図書館の催し物等の情報収集に努めています。紙芝居のレンタルも再開致しました。地域内の散歩なども行っています。	町内会に加入し、夏祭りの参加、事業所玄関前に亥の子祭りが訪れ利用者との交流がある。利用者は近隣への散歩、初詣など、季節の外出行事に出掛けている。小規模多機能型ホームが主催している認知症カフェに協力している。専門学校など実習生の受け入れ、高等学校でのガイダンスや啓発を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に新しく開設された、認知症カフェ（花奈カフェ）に協力させていただいたり、運営推進会議に参加していただいている民生委員の方等に認知症の方への支援や、家族様の抱えられる悩み不安の相談ができる旨を伝え体制は整えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族様・入居者様・地域民生委員・地域包括支援センターに入居者状況・事故報告・ヒヤリハット・行事等の報告を行い、意見・要望を頂戴し、施設内にて最少人数で開催し、意見交換を行い運営に反映をして、サービス向上につなげています。	様々な構成メンバーで同一建物内の小規模多機能型ホームと合同で開催している。事故報告・ヒヤリハット・行事報告・意見交換などを行っている。利用者のレクリエーションがマンネリ化していた経緯を受け、参加者の意見を受け新たな取り組みをした実績がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議などの報告を行い、運営上不明な点・疑問点などを問い合わせを行っています。また報告しなければならないような事故が発生した場合速やかに報告させていただきます。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加している。ケースにより、管理者又は計画作成者が主にやり取りをしている。市担当者とは窓口へ直接出向き、生活課との連携、加算などについて疑問があれば日頃から相談・報告を行うことで協力関係を築く努力をしている。	

自己評価	外部評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3か月に1度必ず実施をしていきながら正しいケアを職員が自覚をして実践できるよう『不適切なケア』『身体拘束』『虐待』がおこなわれていないかをチェックシートを作成して実践している。これをもとに管理者を中心に個々に面談などを実施しています。	身体拘束をしない介護を目指している。3か月毎の身体拘束廃止委員会を開催している。言葉の拘束にならないように『何かお手伝いをしましょうか』と尋ねるようにしている。身体拘束チェックシートを活用し、それをもとに管理者と面談をしている。適宜、利用者と一緒に居室に行き環境面の点検をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	主として内部研修を実施しています。外部研修への参加もしています。業務中入居者様に対して、スピーチロックをはじめ、不適切なケアから始まる虐待を防止するため、チェックシートなどを利用して職員の意識の向上を図っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、管理者補佐、介護支援専門員を中心とし、研修などを行い権利擁護の知識を深めています。以前、入居者様の中に『かけはし』をご利用の方もおられたり、成年後見制度をご利用の方もおられたので、日常の業務の中で理解をする機会がありました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項・運営規定を理解していただけるよう説明させていただいています。その時点で質問があれば納得されるまで、説明させていただきそのうえで契約していただいています。解約の時は面談を重ね十分な説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様には電話や、メールなどで問題点・要望を聞き早期解決を行い、報告させていただいています。パットや預り金を持参された時に、コミュニケーションを図り意見を聞かせていただいたり、カンファレンス時にも意見・要望を聞かせていただき運営、日常のケアに反映させていただいています。遠方の家族様は、手紙・電話で近況報告をさせていただいています。	月1回は家族に行事毎の写真を送っている。家族とは面会時・電話連絡時・メールなどで居室担当者を中心に要望を把握し連絡ノートで情報共有している。内容により早急に対応、出来る限りの要望に対応している。面会は事前予約制の居室での面会をしている。遠方の家族には手紙や電話で近況報告している。	

自己評価	外部評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	介護管理者会議等定期的な会議を開催し、直接、代表や労務などの課長などに現場の業務の改善に対する提案や意見聴取を行い反映させています。	代表者は職員の顔を知る、意見を聴く方針から、定期的な面談を実施している。毎月の管理者会議で話し合いを行い職場環境の充実をしている。資格取得の支援、親睦会、永年勤続表彰など福利厚生の実施もある。職員が主体的に取り組めるように内部研修は職員が指導者として研修をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員に対して、個人面談を定期的に行い、スキル目標・一年後の目標・三年後の目標を開き、業務に対する考え・意見の聞き取りを行い職場環境の整備を行い、給与査定・賞与査定の参考にしています。職員を守るためマスクや手指消毒スプレーを配布していました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人に実務者研修・介護福祉士他の資格取得希望者に資格支援制度があり、スキルアップを応援しています。また、外部の研修も参加を促し、研修費の補助も行っています。研修日は勤務表上、『研修』とし出勤扱いにし、資格・研修が取得しやすい環境を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	例年は同法人内の小規模多機能施設や、同法人グループのグループホームと、行事・研修・会議を定期的に行い、交流を図り、広島市内の施設、居宅、病院に営業やあいさつに伺った時に情報交換などを行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前に、ご自宅・施設に訪問を本人様・家族様と1回以上の面談を行い、お話をさせていただきながら不安なこと・施設で生活される中でのご要望・職員がお手伝いさせていただける事等聞かせていただきながら、顔を覚えていただき関係づくりをさせていただきます。		

自己評価	外部評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前の面談をはじめ、カンファレンス、契約時に話をお聞きし入居者の意向も踏まえケアプランの作成を行い、迅速に対応できるようスタッフにも情報の共有を行い、支援をし連絡を密に取りながら関係構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設見学をしていただき、家族様から、入居者の状況を詳しく聞き取りを行い、また、担当ケアマネジャー様からも聞き取りを行いケアプランを作成してサービスを開始しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者の尊厳を守りながら、家族の一員であることの認識をして、ゆっくりと『普通の生活』をしていただけるように、昼の食事を入居者と食べさせていただき、関係を構築しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設目標の中に『入居者を家族様とともに支援いたします。』という目標を掲げ、面会に来られた家族様に状況の報告を行う等、家族様との会話を大切に、遠方の家族様には電話・手紙などで状況をお知らせし、家族様の要望を聞きながら共に入居者を支えていけるよう関係を構築しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族様の面会・親戚の方の面会、家族様との外出・外泊を大切にしてくださいよう支援していましたが、コロナやインフルエンザなどの感染症が増大して面会や外出等の制限をしていましたが状況を見ながら臨機応変に対応し、今後状況を確認しながら段階的に制限緩和をしていきます。	同一建物内の小規模多機能型ホームとの交流により馴染みの関係を増やす取り組みをしている。本が好きな方は地元の図書館や絵が好きな方は美術館へ行くなど、職員対応にて外出をしている。散歩や地域行事などの外出を通して馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	2階ユニット・3階ユニットでレクリエーション・行事・外出支援など交流ができるようにし、ユニット内においても座席を工夫して気軽に会話ができるように考慮しています。食器拭き・洗濯物を畳んでいただきながら、会話していただけるように支援も行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後も様子などを電話でお伺いしたりして、相談が気軽にさせていただけるようにしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の話を傾聴し、家族様が面会に来られた時に家族様に普段の様子などを、現場職員から報告させていただいたり、カンファレンスの時に、本人様の意向を聞き、本人様の意向に沿えるようにサービスの提供を行っています。また、担当者会議などで、普段の会話の中から本人様の意向の情報収集に努めています。	ゆっくり話をする中で思いを受け止め、申し送りノートや朝・夕の申し送りで共有している。家族の面会時は必ずその日の出勤者が挨拶をし、近況報告をしている。自分の想いを伝える事が難しい方は、家族の情報を得て、本人の興味を示すもの、本人の発語や表情、行動から把握し本人本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活の様子を、本人様・家族様・担当ケアマネ様より情報収集を行っています。他施設をご利用だった場合は、こちらからその施設に出向き担当者様からの話も聞かせていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	月1度状況の報告を聞きADL（日常生活動作）の把握に努めたり、レクリエーション・体操・家事のお手伝いを通じ入居者様の身体状況を確認させていただいたりしながら現状の把握に努めています。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族様参加のカンファレンス・担当者会議での意見・課題などをケアプランに反映して支援を行っています。訪問看護師と現場職員の間で連携が取れるように医療連携ノートを作成してケアプランに反映できるようにしています。	得意なこと、不得意なことを評価している。ケアプランチェックシートを活用し毎日実施できているか確認している。毎月評価を行い、アイデアが出やすいように職員へ回覧することで気づきや追記をしている。本人の生活が彩がある生活となるような暮らしを想像しながら計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝・夕の申し送りで入居者様の細かな変化・気づきを職員間で共有を行い日々の支援をしています。各ユニット内で申し送りノートを活用し情報の共有をしており、ケアマネに情報の漏れがないようにしています。ケアプランへの反映ができるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別支援として、コーヒーを飲みにお連れしたり、買い物にお連れしたり、家族様と外食・外出に行っていたりしていましたが、コロナ禍の数年間実施していません。今後は状況を確認しながら再開をしていきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	南区民文化センター内にある、図書館を利用したり、近所にある喫茶店を利用したりしています。郵便局・スーパー・公園・神社などに地域資源を活用できるように支援させていただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医の週1回の往診をはじめ、入居前からのかかりつけ医を希望された場合は、家族様の協力を得ながら受診していただいています。そのほか隔週毎の歯科の往診、週1回の訪問看護による入居者様の健康管理に努めています。事業所内にAED（自動体外式除細動器）を設置しており、今後職員全員が使用できるように勉強会を重ねていく予定です。	週1回の訪問診療、緊急時の連絡体制が整っていることと、これまでのかかりつけ医を継続可能なことを説明し、かかりつけ医を決めている。薬局との連携、週1回の訪問看護師の来訪もあり、緊急時の対応や適切な医療が受けられるように対応している。以前のかかりつけ医の受診は家族の協力を得ている。	

自己評価	外部評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員と訪問看護師の連携を図るため医療連携ノート・申し送りノートの活用を行いながら、往診時に医師への連絡の漏れがないように工夫を行ったり、訪問看護との連携を図っています。24時間看護職員との連絡がつくような体制をと、現場職員が主治医・訪問看護師の支持を受けて対応できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設の情報提供書・主治医から紹介状を用意して入院していただき、入院先の医療連携室の相談員との連絡を取り合っています。入院中家族様と連絡を取り合い症状をお伺いしたり、できる限り入院先と連携を取り状態を把握するようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時、『重度化した場合における（看取り）対応に係る指針』の書面を通して、ご家族様に重度化した場合・看取りに対しての考え意向を聞き、重度化された場合、医師・ケアマネ・管理者・家族様とカンファレンスを行い、できるだけ意向に沿い、また、グループホームにできる看取りを理解していただいたうえで支援させていただきます。	希望があれば看取りをする方針である。意向はいつでも変えられることを説明し、状態変化に応じて家族と相談しながら方針を決めている。夜間対応マニュアルを作成している。令和7年1月から訪問看護師、主治医、薬局と情報共有アプリを活用することで迅速な初動行動が取れる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの研修、緊急時の対応の研修をはじめ、緊急時・事故発生時の連絡網を作成し、各ユニットに掲示を行っています。救命救急の研修も受講していただいています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署立ち会いのもと、日中・夜勤帯の想定をして、防火訓練を年2回行い避難訓練を行って、通報方法も職員に周知しています。緊急時の連絡網の作成をしています。コロナ禍の間も自主訓練を実施しています。	消防署の立ち会いのもと、同一建物内の小規模多機能型ホームと一緒に訓練をしている。各ユニットに防火管理者が1名以上いる。ハザードマップ上は水害を受けやすい地域のため、有事の際は垂直避難できる体制が整っている。地域の避難場所に指定を受けており、5日程度の備蓄を整備している。	

自己評価	外部評価	項 目（ 2階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護保険法の「尊厳を守る」「自己決定」「自己選択」を職員一人ひとりに周知していけるよう、施設目標に織り込み、トイレ誘導時、就寝時等個人のプライバシーが守られるように支援しています。またスピーチロックが行われないよう、身体拘束委員会などで事例を取り上げ、職員に周知しています。	笑顔で接することに心掛け、利用者の尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への不適切な対応にはその場で気づきを促している。年2回の定期又は必要時に独自のチェックシートを活用し、自己点検をしている。身体拘束廃止委員会などで事例検討し、日頃のケアの見直しをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様から話が傾聴できるよう施設内の雰囲気作りに気を配り、入居者様との会話を大切に、入居者様の思いを汲み取り、自己決定ができるように支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の介護度・レベルに合わせ個別レクリエーション・個別支援を行い、また職員の勤務も余裕のあるシフトにして、入居者様主体の生活ができるようにしています。お天気の良い日には、近隣の公園に散歩に出かけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族様に、季節に合った洋服を用意していただき、好みの洋服を着ていただいています。2か月に一度訪問美容師に髪をカットしていただいたり、希望に応じて、カラーリング・パーマもできるようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理済の食材を利用している為、季節に応じて、カレーパーティーを行ったり、おやつに、手作りのケーキ・ぜんざい・ゼリー等作り、目でも楽しんでいただけるよう形・色合いなども工夫して提供をしています。食器拭き・お盆拭きなども職員と談笑しながらしていただいています。	湯せんのおかずを使用し、ご飯は炊き立てを提供している。家族だから一緒に食べようという方針により、昼食のみ利用者と職員は同じ時間に同じ食事をしている。月1～2回は、利用者のリクエストに応え食材の買い出しから食事作りをしている。ソーメン流しなど季節毎のイベント食も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	栄養士が立てた献立を提供しています。 食事量は、入居者様に適した量を提供 し、水分摂取量は、記録により管理を行 い確保しています。入居者様の好みの水 分（お茶・紅茶・コーヒー・抹茶・ポカ リスエット）などを用意して飽きないよ うに摂取していただく工夫をしていま す。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	日常は、食事の度に口腔ケアをお一人お ひとり行い、必要に応じては介助も行っ ています。また、歯科受診の必要な入居 者様は、歯科医に往診に来ていただき、 診ていただき、適切な口腔ケアの指導を 職員が受け支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、個々の排泄 パターンを把握し、トイレ誘導を行って います。日中は、リハビリパンツ・パッ ト等を活用していますが、夜間帯はポー タブルトイレも使用しています。歩行可 能な方の下肢筋力の低下を防ぐため、体 操の中に足ふみなど取り入れたり、回廊 型の廊下を利用して生活リハビリも行っ ています。	紙おむつはなるべく使用しない方針とし ている。排泄記録表を活用し、利用者の 尊厳を重視したトイレに座ることを基本 としている。下肢筋力の低下を防ぐため にリハビリを取り入れている。必要時は 業者による紙おむつについての学ぶ機会 を確保し、日頃の排泄状況を検証しなが ら支援の見直しをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表を活用して個々の排便の 周期の確認を行い、水分を摂取してい ただき自然に排便を促せるようにしてい ます。薬などの必要な時には、医師・看護 師に支持を仰いでいます。体操を日課の 一つにして、身体を動かして予防にも努 めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	清潔保持のため、週に2回～3回入浴で きるように支援しています。体調不良の 方は看護師の指示のもと清拭を行って います。手浴・足浴などの実施もしてい ます。ゆず湯なども楽しんでいただき、入 浴が楽しみにできるような工夫もしてい ます。	利用者の入浴習慣に合わせ、週2～3回の 午前浴又は午後浴と柔軟に対応してい る。入浴は据え置き式浴槽で2方向から 介助できる個人浴である。午後入浴後 は、水分補給として冷たいもの、温かい 飲み物を用意して飽きのないように工夫 している。冬至の柚子湯などで寛いでも らえるよう工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	基本就寝時間は決めず、眠い方 から就寝介助をしています。夕食 後は、野球観戦・ドラマ・歌番 組・バラエティー番組等その時々 に合わせて楽しんでいただきます。 昼間は、体調に合わせて休んで いただいたり、休みたい希望があ れば、夜間の睡眠に支障のない 程度の昼寝をしていただしてい ます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬管理表を用いて、服薬漏れ がないようにしています。また、 誤薬が無いよう、服薬を行うス タッフ、それを確認するスタッフ と声に出し合い二重確認をして います。入居者様の前にて、声 を出し、日にち・名前・何食後 などと確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	家族様に協力していただき、嗜 好品を持参していただき提供し ています。また近所の郵便局な どにも同行をしていただきなが ら、散歩も楽しんでいただける 機会も作っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	家族様との外出（買い物・食事） 外泊もしていただいています。地 域の夏祭り・亥の子祭りに参加 していただき、お正月には地元 の神社に参拝に行くなどの外出 支援もしています。今年度はコ ロナ禍の為、家族様との外出は 実施できていません。	近隣への散歩、地域の夏祭り・ 亥の子祭りに参加している。初 詣・ドリミネーション・サーカ スの見物など、季節の外出行事 で普段は行けないような所へ出 かけ『非日常』を楽しむことも ある。桜の時期には事業所の廊 下に桜の切り枝を生け、桜の花 を鑑賞できるように工夫してい る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	認知症の入居者様ですので、個 人で持たれることで、紛失など の事故を防ぐため、家日用品・ 外出支援に必要なお金は、事務 所でお金を預かり、個々に必要 なもの、外出支援の時に利用者 様に買い物を楽しんでいただい ています。その収支は、毎月家 族様に報告させていただいて います。		

自己評価	外部評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話・手紙は入居者・家族様の意向を大切にしています。携帯電話なども持たれる方は個人の管理のもと持っていていただき、選挙なども本人様の意志を尊重して意向を聞いています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の飾り物や入居者様の写真を掲示したり、入居者様が、楽しく生活できるように工夫しています。七夕などには、笹飾りをしたり、季節ごとに飾りを変えています。湿度・温度の管理も入居者様に合わせて行っています。夏は、エアコンだけに頼らず、扇風機なども利用しています。	利用者と職員が共同作成した季節の飾りつけをしている。食事時の正しい姿勢をサポートするために昇降タイプのテーブルを用意している。リビングの座席は利用者の状況に応じてコミュニケーションがし易いように配慮しテーブルやソファの位置などレイアウトの工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの席位置には、気の合う人が座り、談笑ができるように配慮しています。また、ソファなども利用して、日中思い思いの場所で過ごせるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	仏壇なども、居室に持ってきていただいたり、家族様の写真や、入居前のなじみの物お気に入りの品々を居室において安心して、落ち着かれ居心地の良いスペースを作っています。居室前には表札ではなく、フルーツや花の名前のプレートとをかけわかりやすく識別する工夫をしています。	新調する方が多いが利用時になるべく馴染みの使い慣れた品物の持参をお願いしている。仏壇、大画面テレビ、家族写真など使い慣れた物、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。居室入り口の表札は、果物や花の名前のプレートを飾り識別しやすいように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニット内にトイレ・洗面所・お風呂があり、わかりやすく、移動しやすい動線になっており、台所もユニット内にあり、食事を作る音や、においを感じられるようになっています。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目（ 3階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念を事業所理念として、朝礼時に唱和を行っています。また、理念を基に施設目標を作り、入居者様・家族様へのサービス向上に努めています。地域に対しても職員に地域密着の施設であることが強く認識でき地域の一員であることを自覚するために施設目標にのりこんでいます。今年度の目標はより深く周知するため昨年と同じものにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入れていただき、町内の主な行事夏祭り・亥の子祭りに参加させていただきました。南区民文化センターの図書館の催し物等の情報収集に努めています。紙芝居のレンタルも再開致しました。地域内の散歩などもおこなっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に新しく開設された、認知症カフェ（花奈カフェ）に協力させていただいたり、運営推進会議に参加していただいている民生委員の方等に認知症の方への支援や、家族様の抱えられる悩み不安の相談ができる旨を伝え体制は整えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族様・入居者様・地域民生委員・地域包括に入居者状況・事故報告・ヒヤリハット・行事等の報告を行い、意見・要望を頂戴し、施設内にて最少人数で開催し、意見交換を行い運営に反映をして、サービス向上につなげています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議などの報告を行い、運営上不明な点・疑問点などを問い合わせを行っています。また報告しなければならないような事故が発生した場合速やかに報告させていただきます。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を3か月に1度必ず実施をしていながら正しいケアを職員が自覚をして実践できるよう『不適切なケア』『身体拘束』『虐待』がおこなわれていないかをチェックシートを作成をして実践している。これを基に管理者を中心に個々に面談などを実施しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	主として内部研修を実施しています。外部研修への参加もしています。業務中入居者様に対して、スピーチロックをはじめ、不適切なケアから始まる虐待を防止するため、チェックシートなどを利用して職員の意識の向上を図っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、管理者補佐、介護支援専門員を中心とし、研修などを行い権利擁護の知識を深めています。以前、入居者様の中に『かけはし』をご利用の方もおられたり、成年後見制度をご利用の方もおられたので、日常の業務の中で理解をする機会がありました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項・運営規定を理解していただけるよう説明させていただいています。その時点で質問があれば納得されるまで、説明させていただきそのうえで契約していただいています。解約の時は面談を重ね十分な説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様には電話や、メールなどで問題点・要望を聞き早期解決を行い、報告させていただいています。パットや預り金を持参された時に、コミュニケーションを図り意見を聞かせていただいたり、カンファレンス時にも意見・要望を聞かせていただき運営、日常のケアに反映させていただいています。遠方の家族様は、手紙・電話で近況報告をさせていただいています。		

自己評価	外部評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	介護管理者会議等定期的な会議を開催し、直接、代表や労務などの課長などに現場の業務の改善に対する提案や意見聴取を行い反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員に対して、個人面談を定期的に行い、スキル目標・一年後の目標・三年後の目標を開き、業務に対する考え・意見を聞き取りを行い職場環境の整備を行い、給与査定・賞与査定の参考にしています。職員を守るためマスクや手指消毒スプレーを配布していました。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人に実務者研修・介護福祉士他の資格取得希望者に資格支援制度があり、スキルアップを応援しています。また、外部の研修も参加を促し、研修費の補助も行っています。研修日は勤務表上、『研修』とし出勤扱いにし、資格・研修が取得しやすい環境を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	例年は同法人内の小規模多機能施設や、同法人グループのグループホームと、行事・研修・会議を定期的に行い、交流を図り、広島市内の施設、居宅、病院に営業やあいさつに伺った時に情報交換などを行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前に、ご自宅・施設に訪問を本人様・家族様と1回以上の面談を行い、お話をさせていただきながら不安なこと・施設で生活される中でのご要望・職員がお手伝いさせていただける事等聞かせていただきながら、顔を覚えていただき関係づくりをさせていただきます。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前の面談をはじめ、カンファレンス、契約時に話をお聞きし入居者様の意向も踏まえケアプランを作成を行い迅速に対応できるようスタッフにも情報の共有を行い、支援をし連絡を密に取りながら関係構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設見学をしていただき、家族様から、入居者様の状況を詳しく聞き取りを行い、また、担当ケアマネージャー様からも聞き取りを行いケアプランを作成してサービスを開始しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の尊厳を守りながら、家族の一員であること認識をしてゆっくりと『普通の生活』をしていただけるように、昼の食事を入居者様と食べさせていただき、関係を構築しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設目標の中に『入居者様を家族様とともに支援いたします。』という目標を掲げ、面会に来られた家族様に状況を報告を行う等家族様との会話を大切に、遠方の家族様には電話・手紙などで状況をお知らせをし家族様の要望を聞きながら共に入居者様を支えていけるよう関係を構築しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族様の面会・親戚の方の面会、家族様との外出・外泊を大切にしてくださいよう支援していましたが、コロナやインフルエンザなどの感染症が増大して面会や外出等の制限をしていましたが状況を見ながら臨機応変に対応し。今後状況を確認しながら段階的に制限緩和をしています。		

自己評価	外部評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	2階ユニット・3階ユニットでレクリエーション・行事・外出支援など交流ができるようにし、ユニット内においても座る席を工夫して気軽に会話ができるように考慮しています。食器拭き・洗濯物を畳んでいただきながら、会話していただけるように支援も行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後も様子などを電話でお伺いしたりして、相談が気軽にさせていただけるようにしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の話を傾聴し、家族様が面会に来られた時に家族様に普段の様子などを、現場職員から報告させていただいたり、カンファレンスの時に、本人様の意向を聞き、本人様の意向に沿えるようにサービスの提供を行っています。また、担当者会議などで、普段の会話の中から本人様の意向の情報収集に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活の様子を、本人様・家族様・担当ケアマネ様より情報収集を行っています。他施設をご利用だった場合は、こちらからその施設に出向き担当者様からの話も聞かせていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	月1度状況の報告を聞きADLの把握に努めたり、レクリエーション・体操・家事のお手伝いを通じ入居者様の身体状況を確認させていただいたりしながら現状の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族様参加のカンファレンス・担当者会議での意見・課題などをケアプランに反映をして支援を行っています。訪問看護師と現場職員の間で連携が取れるように医療連携ノートを作成してケアプランに反映できるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝・夕の申し送りで入居者様の細かな変化・気づきを職員間で共有を行い日々の支援しています。各ユニット内で申し送りノートを活用し情報の共有をしており、ケアマネに情報の漏れがないようにしています。ケアプランへの反映できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別支援として、コーヒーを飲みにお連れしたり、買い物にお連れしたり、家族様に外食・外出に行っていただいたりしていましたが、コロナ禍の数年間実施していませんが、今後は状況を確認しながら再開をしていきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	南区民文化センター内にある、図書館を利用したり、近所にある喫茶店を利用したりしています。郵便局・スーパー・公園・神社などに地域資源を活用できるように支援させていただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医の週1回の往診をはじめ、入居前からのかかりつけ医を希望された場合は、家族様の協力を得ながら受診していただいています。そのほか隔週毎の歯科の往診、週1回の訪問看護による入居者様の健康管理に努めています。事業所内にAEDを設置しており、今後職員全員が使用できるように勉強会を重ねていく予定です。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員と訪問看護師の連携を図るため医療連携ノート・申し送りノートを活用を行いながら、往診時に医師への連絡の漏れがないように工夫を行ったり、訪問看護との連携を図っています。24時間看護職員との連絡がつくような体制をと、現場職員が主治医・訪問看護師の支持を受けて対応できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設の情報提供書・主治医から紹介状を用意して入院していただき、入院先の医療連携室の相談員との連絡を取り合っています。入院中家族様と連絡を取り合い症状をお伺いしたり、できる限り入院先と連携を取り状態を把握するようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時、『重度化した場合における（看取り）対応に係る指針』の書面を通して、ご家族様に重度化した場合・看取りに対しての考え意向を聞き、重度化された場合、医師・ケアマネ・管理者・家族様・とカンファレンスを行い、できるだけ意向に沿い、また、グループホームにできる看取りを理解していただいたうえで支援させていただきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの研修、緊急時の対応の研修をはじめ、緊急時・事故発生時の連絡網を作成し、各ユニットに掲示を行っています。救命救急の研修も受講していただいています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署立会いのもと、日中・夜勤帯を想定をして、防火訓練を年2回行い避難訓練を行って、通報方法も職員に周知しています。緊急時の連絡網を作成をしています。コロナ禍の間も自主訓練を実施していました。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 3階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護保険法の「尊厳を守る」「自己決定」「自己選択」を職員一人一人に周知していけるよう、施設目標に織り込み、トイレ誘導時、就寝時等個人のプライバシーが守られるように支援しています。またスピーチロックが行われないよう、身体拘束委員会などで事例を取り上げ、職員に周知しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様から話が傾聴できるよう施設内の雰囲気作りに気を配り、入居者様との会話を大切に、入居者様の思いを汲取り、自己決定ができるように支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の介護度・レベルに合わせ個別レクレーション・個別支援を行い、また職員の勤務も余裕のあるシフトにして、入居者様主体の生活ができるようにしています。お天気の良い日には、近隣の公園に散歩に出かけます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族様に、季節に合った洋服を用意していただき、好みの洋服を着ていただいています。2か月に一度訪問美容師に髪をカットしていただいたり、希望に応じて、カラーリング・パーマもできるようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理済の食材を利用している為、季節に応じて、カレーパーティーを行ったり、おやつに、手作りのケーキ・ぜんざい・ゼリー等作り、目でも楽しんでいただけるよう形・色合いなども工夫して提供をしています。食器拭き・お盆拭きなども職員と談笑しながらしていただいています。		

自己評価	外部評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	栄養士が立てた献立を提供しています。 食事量は、入居者様に適した量を提供 し、水分摂取量は、記録により管理を行 い確保しています。入居者様の好みの水 分（お茶・紅茶・コーヒー・抹茶・ポカ リスエット）などを用意して飽きないよ うに摂取していただく工夫をしていま す。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	日常は、食事の度に口腔ケアをお一人お 一人行い、必要に応じては介助も行っ ています。また、歯科受診の必要な入居 者様は、歯科医に往診に来ていただき、診 ていただき、適切な口腔ケアの指導を職 員が受け支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、個々の排泄 パターンを把握し、トイレ誘導を行っ ています。日中は、リハビリパンツ・パッ ト等を活用していますが、夜間帯はポー タブルトイレも使用しています。歩行可 能な方の下肢筋力の低下を防ぐため、体 操の中に足ふみなど取入れたり、回廊型 の廊下を利用して生活リハビリも行っ ています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表を活用して個々の排便の 周期を確認を行い、水分を摂取してい ただき自然に排便を促せるようにしてい ます。薬などの必要な時には、医師・看護 師に支持を仰いでいます。体操を日課の 一つにして、身体を動かして予防にも努 めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	清潔保持のため、週に2回～3回入浴で きるように支援しています。体調不良の 方は看護師の支持のもと清拭を行って います。手浴・足浴なども実施もしてい ます。ゆず湯なども楽しんでいただき、入 浴が楽しみにできるような工夫をしてい ます。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	基本就寝時間は決めていなく、 眠い方から就寝介助をしています。 夕食後は、野球観戦・ドラマ・ 歌番組・バラエティ番組等その 時々に合わせて楽しんでいます。 昼間は、体調に合わせて休ん でいただいたり、休みたい希望 があれば、夜間の睡眠に支障の ない程度の昼寝をしていただい ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬管理表を用いて、服薬漏れ がないようにしています。また、 誤薬が無いよう、服薬を行うス タッフと声に出し合い二重確認 をしています。入居者様の前に て、声を出し、日にち・名前・ 何食後などと確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	家族様に協力していただき、嗜 好品を持参していただき提供し ています。また近所の郵便局な どにも同行をしていただきなが ら、散歩も楽しんでいただける 機会も作っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	家族様との外出（買い物・食事） 外泊もしていただいています地 域の夏祭り・亥の子祭りに参加 していただき、お正月には地元 の神社に参拝に行くなどの外出 支援をしています。今年度はコ ロナ禍の為家族様との外出は実 施できていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	認知症の入居者様ですので、個 人で持たれることで、紛失など の事故を防ぐため、家日用品・ 外出支援に必要なお金は、事務 所でお金を預かり、個々に必要 なもの、外出支援の時に利用者 様に買い物を楽しんでもいただ いています。その収支は、毎月家 族様に報告させていただいてい ます。		

自己評価	外部評価	項 目 (3階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話・手紙は入居者・家族様の意向を大切にしています。携帯電話なども持たれる方は個人の管理のもと持っていていただき、選挙なども本人様の意志を尊重して意向を聞いています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の飾り物や入居者様の写真を掲示したりして、入居者様が、楽しく生活できるように工夫しています。七夕などには、笹飾りををしたり、季節ごとに飾りを変えています。湿度・温度の管理も入居者様に合わせて行っています。夏は、エアコンだけに頼らず、扇風機なども利用しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの席位置には、気の合う人が座り、談笑ができるように配慮しています。また、ソファなども利用して、日中思い思いの場所で過ごせるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	仏壇なども、居室に持ってきていただいたり、家族様の写真や、入居前のなじみのもののお気に入りの品々を居室において安心して、落ち着かれ居心地の良いスペースを作っています。居室前には表札ではなく、フルーツや花の名前のプレートとをかけわかりやすく識別する工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニット内にトイレ・洗面所・お風呂があり、わかりやすく、移動しやすい動線になっており、台所もユニット内にあり、食事を作る音や、においを感じられるようになっています。		

V アウトカム項目(3階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームでしお

作成日 令和7年5月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	コロナ禍で制限をされていた面会が全面緩和されましたが、家族様との外出が少なくなっている。	家族様との外出を楽しんでいただき、関係性を大切にし思い出を作っていただくよう支援を実施。	家族様に面会・外出制限の緩和されたことを文章でお知らせを行う。	1か月～2か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。